

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03712

研究課題名(和文) ソーシャルワーク・ケアマネジメントの独自性とその評価に関する研究

研究課題名(英文) propriety and evaluation of social work care management

研究代表者

白澤 政和 (Shirasawa, Masakazu)

国際医療福祉大学・医療福祉学研究科・教授

研究者番号：20094477

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：介護支援専門員調査では、ソーシャルワーク・ケアマネジメント実施度として、環境への支援、利用者・家族との共同、ストレンクス支援、高齢者と環境との関係の把握、利用者との関係、他機関とのチームワーク、インフォーマルケアの活用7因子を生成し、各因子ともソーシャルワーカーと他専門職間で差がみられなかった。相談支援専門員調査では、利用者の意思決定支援の実施度と重要度として丁寧な意思形成・表明・実現支援、事業所の意思決定支援体制、意思決定の判断基準、本人理解のためのアセスメントの4因子を生成したが、社会福祉士は の実施度が低く、 の重要度が高く、精神保健福祉士は の実施度が高かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ケアマネジメントは多くの国家資格者等が実施しているが、ソーシャルワーカーは利用者本位を視点にして支援をする特徴があり、そうした特徴をケアマネジメントに従事するソーシャルワーカーがどこまで実施しているのかを明らかにし、さらにそうした特徴を全てのケアマネジメントに従事する人々に拡大していくことは社会的に意義あることである。

研究成果の概要(英文)：As characteristics of care managers for the frail elderly, we clarified that they carry out 7 factors: (1) support to improve envelopment, (2) collaboration with clients and their families, (3) strengths support, (4) assessment between client and there envelopment, (5) relationship with clients, (6) teamwork with other agencies, and (7) refer to informal care. Degree of implementation 7 factors are no difference between social workers and other professions. Self-determination supports of care managers for the disabled persons are divided 4 factors: (1) careful support of formation, expression and realization of client's decision, (2) agency's policy to support self-determination, (3) criterion of self-determination, (4) assessment to understand client. Certified social workers are lower on degree of implementation of (1) and higher on degree of importance of (1)(3) and certified social workers of mental health are higher on degree of implication of (1).

研究分野：社会福祉

キーワード：ケアマネジメント ソーシャルワーク 介護支援専門員 相談支援専門員

## 1. 研究開始当初の背景

日本ではケアマネジメントを、高齢者領域では介護保険制度での介護支援専門員が、障害児者に対しては障害者総合支援法に基づく相談支援専門員が担っている。介護支援専門員は、介護福祉士を中心に多様な国家資格取得者等が行っており、相談支援専門員は社会福祉士を中心に、一定の研修を終えた国家資格無資格者もそれなりに実施している。同時に、前者は資格に合格し、研修受講でもって、後者は研修受講でもって、資格を得ることができるが、こうした両者のケアマネジメントのレベルを高めていくことが、大きな課題である。特に、アメリカやイギリスでのケアマネジメントは主としてソーシャルワーカーが担っており、多様な専門職がケアマネジメントを担っている日本では、ケアマネジャーがソーシャルワークの視点を有して実践しているかが課題である。

## 2. 研究の目的

(1)本研究は、高齢者に対応する介護支援専門員および障害者に対応する相談支援専門員が行っているケアマネジメントに対して、ソーシャルワークの視点がどの程度定着しているかを明らかにすることを、主たる目的にした。現実の介護支援専門員は多様な基礎資格者から成っており、本調査結果では、介護福祉士 60.7%が最も多いが、次に、看護師・准看護師 13.9%、社会福祉士 11.1%の順になっている。一方、相談支援専門員については、本調査結果では、社会福祉士 43.0%、介護福祉士 15.4%、精神保健福祉士 13.3%の順であるが、その他が 14.4%ある。全米ソーシャルワーカー協会(NASW)が示している、ソーシャルワーク・ケアマネジメントの特徴である、利用者中心の考え方、クライアントとソーシャルワーカーの関係の卓越性、環境の中での人という枠組み、ストレングスの側面、チームワーク、マイクロ、メゾ、マクロレベルへの介入、といった特徴が、現実の介護支援専門員のケアマネジメントにどの程度定着しているかを明らかにする。同時に、介護支援専門員から支援を受けている利用者や家族は、上記のソーシャルワーク・ケアマネジメントの特徴について、どの程度満足しているかを明らかにする。一方、障害児者を対象にする相談支援専門員は、上記の利用者中心の考え方である意思決定支援がどの程度定着しているかを明らかにする。同時に、これら3つの調査では、ソーシャルワーカーである社会福祉士や精神保健福祉士はどの程度先導的役割を果たしているのかを明らかにする。そのため、本研究では、介護支援専門員に対する郵送調査、その介護支援専門員とマッチングした利用者を対象とした郵送調査、相談支援専門員に対する郵送調査の3つの調査を行った。

## 3. 研究の方法

(1) 第1の調査は、2017年1月に郵送調査を行ったものである。全国の居宅介護支援事業者から無作為で3000か所を抽出し、その管理者に調査の承諾をいただき、事業所で50音順の最も早い介護支援専門員の紹介を依頼した。次に、当該介護支援専門員に調査への協力を依頼した。調査項目は、ソーシャルワーク・ケアマネジメントの特徴である、利用者中心の考え方、クライアントとソーシャルワーカーの関係の卓越性、環境の中での人という枠組み、ストレングスの側面、チームワーク、マイクロ、メゾ、マクロレベルへの介入に関する41項目であった。結果として、1742名の介護支援専門員(回収率:58.1%)から調査票を回収することができた。

(2)第2の調査は、第1の調査で回答を得た介護支援専門員に対して、担当している利用者の内で、家族介護者がおり、かつ50音順で最も早い利用者およびその家族を対象にして、2018年1月に郵送調査を行ったものである。主たる調査項目は、第1の調査に示した調査項目の全米ソーシャルワーカー協会が示しているソーシャルワーク・ケアマネジメントの特徴であるからの中の、利用者に対応する利用者中心の考え方、クライアントとソーシャルワーカーの関係の卓越性、環境の中での人という枠組み、ストレングスの側面についての34項目の満足度と期待度について尋ねた。結果としては、第1の調査で回答が得られた1742か所の居宅介護支援事業者に対して調査票を郵送し、594名の利用者ないしはその家族(回収率:34.1%)から調査票を回収することができた。

(3) 第3の調査は、障害者相談支援専門員の意思決定支援の現状と課題を明らかにするため、2019年1月に郵送調査を行った。全国の相談支援事業者から無作為で3000か所を抽出し、その管理者に調査の趣旨を理解いただき、事業所の50音順で最も早い相談支援専門員の紹介を依頼し、当該相談支援専門員に調査への協力を依頼した。結果として、1180名の相談支援専門員(回収率:39.3%)から調査票を回収することができた。

## 4. 研究成果

(1)第1の調査の結果として、1742名の介護支援専門員(回収率:58.1%)から調査票を回収することができた。ソーシャルワーカーのケアマネジメントの特徴である41項目の実施状況は、探索的因子分析の結果、「環境への支援」、「利用者・家族との共同」、「ストレングス支援」、「高齢者と環境との関係の把握」、「利用者との関係」、「他機関とのチームワーク」、「インフォーマルケアの活用」の7因子を生成することができた。7因子それぞれについてソーシャルワーク資格の有無でt検定を行ったが、ソーシャルワーカーの資格保有者と他資格者との間ではいずれも有意差がみられなかった。ソーシャルワーク資格者がソーシャル

ワーク・ケアマネジメントを実施しているという仮説は検証されず、ソーシャルワーク養成教育に対する課題が残った。なお、上級の介護支援専門員である主任介護支援専門員は、「他機関とのチームワーク」( $p<.01$ )、「利用者・家族との共同」( $p<.05$ )、「ストレングス支援」( $p<.05$ )、「高齢者と環境との関係の把握」( $p<.05$ )において、その他の介護支援専門員に比べて実施度が有意に高かった。

(2)第1の調査での追加的な結果として、ケアマネジャーは管理者との間でのケアプラン作成での意見の違いがある者が4分の1程度おり、意見の違いがある者の内では、管理者の意向でケアプランを作成している者が3分の2程度いることが分かった。ケアプランの意見の相違の有無を判別する要因は、2項ロジステック回帰分析の結果、ケアマネジャー側では「性別」( $p<.05$ )、「経験年数」( $p<.05$ )、「主任介護支援専門員資格の有無」( $p<.05$ )、事業者側では「事業所の規模」( $p<.05$ )、「介護サービス事業実施の有無」( $p<.001$ )が影響していた。次に管理者とケアマネジャーのどちらの意向でケアプランを決定しているのかを判別する要因を明らかにするため2項ロジステック回帰分析を行ったが、ケアマネジャー側での要因はなく、事業者側の「介護サービス事業実施の有無」( $p<.05$ )が要因として明らかになった。以上から、ケアマネジャーと管理者の間でケアプランを巡って葛藤があり、介護サービス事業を実施していない独立型の介護支援専門員において葛藤が有意に少なく、同時に介護支援専門員自らの意向でケアプランを作成できていることが検証された。

(3)第2の調査の結果については、介護支援専門員と利用者のデータをマッチングさせて分析を行った。まず、介護支援専門員側の41項目の実施度の探索的因子分析を行い、「利用者中心の支援」、「介護支援専門員と利用者の関係の卓越性」、「家族の中での利用者枠組み」、「家族以外の人々との個別の関係」、「ストレングスの支援」、「他機関との協働のチームワーク」、「ミクロ・メゾ・マクロへの介入」の7因子を生成した。これらの7因子のそれぞれの介護支援専門員の実施度について、介護支援専門員の属性によりt検定を行ったが、その結果は、第1回調査同様に、ソーシャルワーク資格の有無で有意差はなかった。次に、7因子の中で利用者支援に対応している と 以外の5因子について、利用者の満足度を、介護支援専門員と利用者の属性をもとにt検定を行った。その結果でも、ソーシャルワーク資格の有無で有意差がなかったが、主任介護支援専門員資格の有無では、「利用者中心の支援」( $p<.05$ )と「家族の中での利用者枠組み」( $p<.05$ )で、主任介護支援専門員は利用者からの満足度が高く、介護支援専門員としての経験年数では、「家族の中での利用者枠組み」( $p<.05$ )、「家族以外の人々との個別の関係」( $p<.05$ )、「ストレングスの支援」( $p<.05$ )で、経験年数が5年以上の者で、利用者の満足度が高かった。一方、利用者側の属性では、利用者の年齢で、「介護支援専門員と利用者の関係の卓越性」( $p<.05$ )、「家族の中での利用者枠組み」( $p<.05$ )、「ストレングスの支援」( $p<.05$ )で、利用者の年齢が高いほど有意に満足度が高かった。以上の結果から、ソーシャルワーカーは、自らの実践においても、また利用者の満足感においても、ソーシャルワーク・ケアマネジメントの優位性を見いだすことができなかった。

(4)第2の調査では、付加的な研究として、介護者調査も同時に実施し、介護離職の実態も明らかにした。就労している介護者が44.4%で、非就労の介護者が44.1%であったが、非就労の介護者の内で介護離職者は12.1%であった。就労を継続している者と介護離職した者を判別するために2項ロジステック回帰分析を行ったが、「介護の期間」( $p<.001$ )、「介護者の年齢」( $p<.05$ )、「ケアマネジャーとの関係での満足感」( $p<.05$ )が関係していることを明らかにした。このことから、日本では毎年約10万人の介護離職者がおり介護離職ゼロを目指しているが、介護者の相談者であるケアマネジャーが仕事から生じる介護者ニーズにも対応して適切な社会資源と結び付けていくことが、介護者の自己実現を支援し、ひいては介護離職ゼロに近づけていく方法であることが示された。

(5)第3の調査結果は、相談支援専門員の平均経験年数は6年4か月、直近1ヶ月間のサービス等利用計画作成件数は12.5件であった。雇用形態は、常勤・専任が6割、非常勤・専任が3割であった。過去1年間に法定研修を除く相談支援に関する研修参加は、複数回参加が7割、一度参加や参加なしがそれぞれ15%程度であった。所属事業所では、社会福祉法人が半数以上を占め、平均相談支援専門員数は2.72人であった。相談支援における意思決定支援に関する39項目について、実践度と重要度を尋ね、実践度について探索的因子分析を行ったが、「丁寧な意思形成・表明・実現支援」、「事業所の意思決定支援体制」、「意思決定の判断基準」、「本人理解のためのアセスメント」の4因子を生成した。4因子それぞれについて合成変数を作成し、重要度は実践度の4因子に基づく合成変数を作り、相談支援専門員の資格との関連についてt検定を行った。社会福祉士は、「丁寧な意思形成・表明・実現支援」( $p<.05$ )の実践度が有意に低く、「丁寧な意思形成・表明・実現支援」( $p<.01$ )と「意思決定の判断基準」( $p<.05$ )の重要度が有意に高かったが、精神保健福祉士は、「丁寧な意思形成・表明・実現支援」( $p<.001$ )の実践度で有意に高かった。介護福祉士や介護支援専門員資格者については、4因子それぞれの実践度と重要度のいずれにも有意差はみられなかった。この結果、障害者の意思決定支援において、社会福祉士は意思決定支援での意思の形成、表明、実現という過程についての重要性を認識しているが、実施度が有意に低いことが示された。一方、精神保健福祉士は、意思決定の形成、表明、実現という過程を丁寧に実施していることが示された。

(6)本調査では、相談支援専門員の資格以外の他の属性との関連についても分析を行ったが、法定研修を除く相談支援に関する研修受講状況との関連の t 検定では、「丁寧な意思形成・表明・実現支援」( $p<.01$ )と「事業所の意思決定支援体制」( $p<.05$ )の実践度で、「事業所の意思決定支援体制」( $p<.05$ )と「意思決定の判断基準」( $p<.05$ )の重要度で有意差がみられ、2 回以上の参加群の方が高かった。雇用形態での一元配置分散分析では、「丁寧な意思形成・表明・実現支援」( $p<.01$ )、「意思決定の判断基準」( $p<.05$ )、「本人理解のためのアセスメント」( $p<.01$ )の重要度で有意差がみられた。相談支援事業所の身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、障害児の 5 領域での一元配置分散分析では、「丁寧な意思形成・表明・実現支援」( $p<.01$ )の実践度で有意差がみられ、多重比較で精神障害領域が知的障害領域よりも高かった( $p<.01$ )。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 白澤政和	4. 巻 第10号
2. 論文標題 体験的「ケア論」 - 在宅でのターミナルケアと認知症ケアを巡って -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桜美林大学大学院紀要『老年学雑誌』	6. 最初と最後の頁 1～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 白澤政和	4. 巻 Vol. 267 No.7
2. 論文標題 地域包括ケアシステムの深化としての地域共生社会の実現に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医学の歩み	6. 最初と最後の頁 1～7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 白澤政和	4. 巻 Vol.21, No.2
2. 論文標題 介護保険制度の持続的発展に向けて 地域包括ケアシステムの確立を基に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本在宅ケア学会誌	6. 最初と最後の頁 13～21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 白澤政和	4. 巻 10月号
2. 論文標題 ケアマネジャーはどこに配置されるべきか：ケアプランをめぐってアウトサイダーとの葛藤をもとに「 「保険者との間で起こるケアプランにおける葛藤	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 72～79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白澤政和	4. 巻 11月号
2. 論文標題 ケアマネジャーはどこに配置されるべきか：ケアプランをめぐってアウトサイダーとの葛藤をもとに」 「管理者との間で起こるケアプランにおける葛藤	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ケアマネジャー	6. 最初と最後の頁 72～79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白澤政和	4. 巻 Vol. 3 No.5
2. 論文標題 高齢者の生活支援と介護予防に寄与しているかー新しい総合事業を検証するー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 医療と介護Next	6. 最初と最後の頁 10～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白澤政和	4. 巻 11
2. 論文標題 今、問われる介護保険の課題 長期展望での改革の必要性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地方議会人	6. 最初と最後の頁 11～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Masakazu Shirasawa
2. 発表標題 Characteristics of Care Management to Provide Effective Support for Working Caregivers
3. 学会等名 25th Asia-Pacific Joint Regional Social Work Conference
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Masakazu Shirasawa
2 . 発表標題 Perceived Importance and Actual Practice of Social Work Care Management among Care Managers in Japan
3 . 学会等名 The 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia / Oceania Regional Congress
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Masakazu Shirasawa, Yoshihito Takemoto, Kazutaka Masuda, Ryosuke Hata
2 . 発表標題 Social Work Care Management: Its Practice and Related Factors
3 . 学会等名 The Joint World Conference on Social Work Education and Social Development (SWSD) 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Mie Ohwa, Masakazu Shirasawa, Yoshihito Takemoto, Kazutaka Masuda, Ryosuke Hata
2 . 発表標題 An analysis of the turnover of care managers and its related factors
3 . 学会等名 The Joint World Conference on Social Work Education and Social Development (SWSD) 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Masakazu Shirasawa, Yoshihito Takemoto, Kazutaka Masuda, Ryosuke Hata
2 . 発表標題 Dilemmas between care managers and office managers in care plan preparation: The current state and challenges
3 . 学会等名 The 2017 Asia-Pacific Joint Regional Social Work Conference (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 白澤政和
2. 発表標題 介護保険システムの持続とケアの質の保障；公助のあり方
3. 学会等名 第22回日本在宅ケア学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 白澤政和
2. 発表標題 地域包括ケア～団塊の世代の高齢化を迎える今後の展望～
3. 学会等名 第19回日本在宅医学会名古屋大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 白澤政和	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 介護保険制度とケアマネジメント：創設20年に向けた検証と今後の展望	

1. 著者名 白澤政和	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 473
3. 書名 ケアマネジメントの本質 生活支援のあり方と実践方法	

〔産業財産権〕

〔その他〕



6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------